

子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 静岡 報告書



2018年11月3日(土)、「子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 静岡」を静岡県産業経済会館大会議室で開催しました。会場には、第一部68人、第二部35人、合計73人が集まりました。

第一部では小河光治・代表理事の挨拶に続いて、共催である静岡県より鈴木紀美代・健康福祉部理事のご挨拶と、県の子どもの貧困対策に関する取り組みのご報告をいただきました。

続いてパネルディスカッション「静岡で考える『子どもの貧困って何だろう?』」には、伊藤智恵子さん(一般社団法人みらい TALK 所属)、押田智子さん(みんなのえがおおたまちゃん食堂代表)、黒内康平さん(静岡大学3年・一般社団法人静岡学習支援ネットワーク所属)、県内在住の大学生がパネリストとして登壇。白井千晶さん(静岡大学人文社会科学部教授)がコーディネーターを務めました。

浜松市で学習支援などの活動に取り組む伊藤さんからは、「学習支援から活動をスタートさせたが、家庭の生活状況が整っていない子どもも多いため、生活支援も始めた。家から教室まで遠くて通わせられないという家庭もあり、送迎なども行っている」、三島市で活動する押田さんからは「孤食の問題や、保護者がなかなか食事の用意ができないというきっかけで活動を始めた。当初は子ども食堂と銘打っていたが、その名前に対して『貧困、シングル家庭』などの先入観がついて回り、来たいのに行きにくいという子どもたちの声を耳にした。子ども食堂の名前を外して入り口を広げ、信頼関係の中で発信してくれる SOS を見逃さないようにしている。」と、活動を続けていく中で出てきたニーズなども踏まえたお話をいただきました。学生の立場で学習支援に取り組む黒内さんは「支援してあげている、という上から視線を子どもたちは敏感に察知する。活動を行う自分たちも楽しみながら子どもと関わることで、子どもたちにとっても楽しい居場所、学習に取り組める場所であるように心がけている。」と、子どもと近い年齢・立場ならではの支援についてお話がありました。児童養護施設で生活していた経験のある、県内在住の大学生からは「施設出身という『かわいそう』『大変だったんだね』という目で見られてしまい、本当の自分を見てもらえないように感じる。施設での生活は、私にとっては決してネガティブなものではなかった。施設にいた経験があるだけだよ、という風に捉えてほしい。」と率直な意見が述べられました。その後、白井さんより





外国籍の家庭や未婚女性の課題など、子ども・若者とその家庭を取り巻く様々な現状が紹介され、それらも踏まえた具体的な対策について議論が展開されました。

第二部では、母と高校生の姉とともに暮らしている架空の中学生女子の事例について、この子どもが自分の置かれている現状についてどのように感じているのか、この子どもに対してどんなサポートができるかについて検討するグループワークを実施。パネリストとして登壇し、このワークを企画した

黒内さんは各グループの発表を受け「あるグループからは、『支援団体やスクールソーシャルワーカーの支援ケースとして挙がってこない、グレーゾーンの子どものかもしれない』という意見が出た。そのような子どもでも、やはりしんどさや困りごとを抱えている。子どもたちとどのようにつながり、どのように寄り添うことができるのか、今後も皆さんと一緒に考えていきたい」と呼びかけました。

参加者からは、「民間や行政で役割や立場は違っても、子どもの貧困解消に向けて連携して取り組むことが大事だと思います。」「制度のはざまにあり、実際に必要な支援が行き届かない子どもたちへの支援を今後も考えていきたいです。」「地域の事情によって、それぞれ取り組み方が違うことがあらためて分かった。発展途上を感じた。今回情報を知る機会であったことがよかった。」「子どもの貧困に限らず、経済格差が広がり住みにくい社会になりつつあります。社会全体として余裕がなく社会的弱者に対して冷たい視線を感じます。今日のような活動を地道に続けることが大切だと思います。」などの感想をいただきました。

【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 静岡】

日 時：2018年11月3日（土）

場 所：静岡県産業経済会館 大会議室

主 催：公益財団法人あすのば／共 催：静岡県、一般社団法人静岡学習支援ネットワーク

後 援：内閣府・熱海市・伊豆市・伊豆の国市・伊東市・磐田市・御前崎市・小山町・掛川市・河津町・川根本町・菊川市・函南町・湖西市・御殿場市・静岡県教育委員会・静岡県社会福祉協議会・静岡市・静岡市社会福祉協議会・島田市・清水町・下田市・裾野市・長泉町・西伊豆町・沼津市・浜松市・東伊豆町・藤枝市・富士市・富士宮市・牧之原市・松崎町・三島市・南伊豆町・森町・焼津市・吉田町

助 成：麒麟福祉財団

参加者：第1部68人 第2部35人 合計73人（延べ103人）

